

世界中で COVID-19 感染はドミノ倒しのように爆発的に拡大（イタリア人はツナミと表現）し、ウィルス感染あるいは公衆衛生の専門家ですら今後の見通し（どのくらい感染が広がり、どのくらい流行が続くのか？）を立てられません（インタビューでは“見えない敵と戦う戦争”などの発言が多く見られます）。3月13日にはWHOはついにPandemic（世界的大流行）と宣言しています。その後の各国首脳そしてメディアの姿勢は一気に緊張が高まり、国を挙げての対応策を取り始めています。今では感染症という医療問題をはるかに超えて、世界各国がロックダウン（Lock down）の方針を打ち出しています。すでに世界中の人々の交流が途絶え、物流も極端に低下し、さらには経済恐慌を引き起こし、仕事を失う人も続出するでしょう。皮肉なことに人々は pandemic を通じて“世界は一つ”を実感し、地球人として見えない敵ウィルスと戦うために一致団結しようという声が高まっています。Youtube を介して WHO のみならず世界の情報にアクセスし、開業小児科医の目を通しての COVID19 についてレポート 3 をお届けします。未だ人類が経験した事のないタイプのパンデミックであり、どこにも明確な対応策はありません。刻々と情勢は変化するので可能な限り内容を更新したいと思いますので参考にしてください。

12月初旬に武漢で最初の COVID19 症例が発生してからまだ3ヶ月しか経過していないのに、中国のみならず感染は世界中に広がり、3月15日の時点で、153カ国から報告された COVID19 感染者は157,312人、死者は5,840人に達しました。そしてわずか1週間後の今日（3月23日）には感染者数は343,015人、死者は14,719人とほぼ倍増しています（死亡率は4.3%）。すでに世界各国で COVID19 感染スクリーニング（ドライブスルー方式などの採用）が始まっています。無症状の人達も検査を受けており、無症状であっても検査で陽性となる人達もたくさん確認されていますので、実際には COVID19 に感染している人の数は、報告されている感染者数の少なくとも10倍いるのではないのでしょうか。武漢の状況は極めて深刻と私も考えていましたが、イタリアを主に欧米諸国での感染拡大も急激かつ深刻であり、現在では中国の感染者数は81,008人であり、中国以外の国々の感染者数は206,371人と、完全に逆転しています。武漢での感染者の増加は収まっているのに、イタリアの感染者は今週中に中国を超えるのではないかと思います。イタリアからの報告は少なくとも中国よりは信頼性があり、3月15日の時点で感染者は21,157人、死者1,441人でしたが、8日後の今日（3月23日）には感染者は59,138人であり、死者は5,476人（単純計算するとイタリアでの死亡率は現時点では9.3%！）と未だに爆発的に増加しています。イタリアの状況は悲惨で、ICUベッドは全く足りません。最近の報告からも小児の発生はほとんどなく、小児の COVID19 臨床経過は軽いようですが、80歳以上の高齢者に限るとその死亡率は14.8%となります。しかし基礎疾患のある小児は当然ながら重症化する可能性があり、注意しなければなりません。さらに問題なのは COVID19 の感染力はかなり強く、また高齢者そして基礎疾患のある人を除くと無症状か軽症であり、この人達が感染を拡げていると指摘されています（virus vector とも表現されます）。簡易検査によるサーベイランスが必要で、米国ではどのくらい感染者が広がっているかを調べ初めており、感染者数は爆発的に増えるでしょう。感染者数、すなわち母数が解ると、死亡率も明確となると思われます。何れにしても無症状の感染者と重症化し死に至る人たちのギャップの理由は何故でしょうか？もちろん全ての感染症に同様なことが言えますが---

未だ正体不明（臨床経過と予後）であり、治療法そして予防するためのワクチンもない現在、COVID19 への私たちの対応策はあるのでしょうか？ワクチン開発は猛烈な勢いで進められていますが、早くても2年しないとインフルエンザワクチンのように多くの人々に接種出来ないでしょう。すなわち全ての人に感染が広まっていると考えて日々を過ごす必要があると言われてしています。ニュースでは earth あるいは planet（惑星）

という言葉を使っており、地球上の全ての人たちがほぼ同じ状況だと言えます。予防接種や健診に来院する家族も感染者、もちろん風邪引きの子供達も、そして私たちクリニックスタッフも同様だと思っています。それならクリニックはしばらく閉鎖するしかありません。感染を広げないためにも、もらわないためにも、全ての人が仕事を放棄することになります。学校を閉鎖しても、集会を止めても、通勤電車の中が最も危険であり、お父さん達が COVID19 を家庭に持ち帰ってしまうかもしれません。クリニックは上記の事を判った上で義務を果たすべく慎重に診療を続けるしかないと思っています。

日本では確認されている感染者(3月23日)は1086人で、死亡は36人と非常に少ないですが、今後は急速に感染が広がる可能性があります。米国のようにスクリーニング検査を日本では行なっていないので、実際の感染者数は不明です。このまま感染拡大の対応策をとらないと、人口の6~7割が感染する可能性があると言っている専門家もいます。私たちも今後1ヶ月の間に大きく状況が変化する可能性を承知して診療したいと思います。以下要約します。

1. 日々の生活で予防に努める。飛沫感染であり空気感染ではありません、しかし非常に小さな分泌水滴は空中を浮遊するので空気感染ともいえるでしょう。一番有効なのは頻りに手洗いし消毒する事です。食事をしっかりと、よく寝て、休息を取り、免疫力を高めましょう。武漢そしてヨーロッパの街では人出が途絶えてしまっていますが、日本でも当然ながら人ごみに出かけるのは避けなければなりません。
2. 予防接種、健診などで受診する場合は、一般受診とは受診の時間帯を厳格に分けるようにしています。また待合室は比較的広いのでできるだけ離れて座ってください。
3. 健康な人たち、特に子供達にとって COVID19 は命の脅威となる重症感染ではないと思われますので冷静にパニックになる事なく生活しましょう。今後インフルエンザのように簡易診断キットが普及し、COVID19 の診断が容易となるかもしれません。
4. COVID19 の初期症状は通常の風邪あるいはインフルエンザとあまり違いがないと思われます。現在のところ特別な診断法も治療法もないので体調不良の場合は大人も子供も家で4~5日間くらい安静にしましょう、つまり自己隔離 (self-isolation) してください。
5. いつまで流行が続くのかと世界中の人々が不安を抱えています。夏になればインフルエンザのように流行は終焉すると推測(期待?)する専門家もいますが、そうではないと言う専門家もいます。